

令和8年1月21日
新しい国際コンテナ戦略港湾政策の
進め方検討委員会
資料2-7

阪神港の取組状況について



「BRALEY」

2026年1月21日
阪神国際港湾株式会社

～目次～

1. 当社の（１年間の）取組
 - 1) 基幹航路の維持・拡大に向けた取組①②
 - 2) 大規模高規格コンテナターミナルの形成
 - 3) **DX**や**GX**、脱炭素化の取組
 - 4) 中期経営計画**2025-2029**の策定

1. 当社の（1年間の）取組

1）基幹航路の維持・拡大に向けた取組①

（1）国際フィーダーネットワークを活用した西日本や日本海側からの集貨

【国際フィーダー航路】

- ・ 2025年8月 三池港に新規寄港開始

【日本諸港利用促進事業※¹ 参画状況】

（2025年4月1日 時点 **計14港**）

- ・ 2025年4月 北九州・直江津・新潟（3港追加）計17港
- ・ 2025年7月 長崎・広島・福山・舞鶴（4港追加）計21港
- ・ 2025年8月 三池（1港追加）計22港
- ・ 2025年9月 今治（1港追加）計23港
- ・ 2026年1月 水島（1港追加）**計24港**

※¹ 日本諸港利用促進事業

【目的】

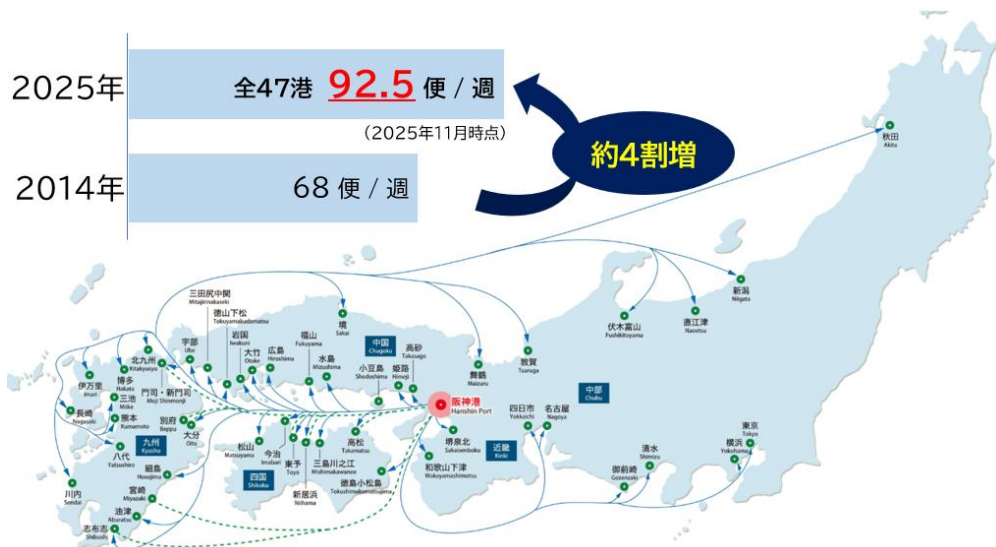
利用促進港と阪神港間の輸送において「**国際フィーダー船**」利用を促進し、阪神港への集貨、ひいては基幹航路の維持・拡大に寄与させる。

利用促進港



阪神港

国際フィーダー週間寄港便数



利用促進港

● 参加港（24港）

● 参加に向け協議中
〔大竹港、高松港、三島川之江港、松山港〕

■ 日本海側

秋田港、境港、敦賀港、直江津港、新潟港、伏木富山港、舞鶴港

■ 中国地方

広島港、福山港、水島港

■ 四国地方

今治港、徳山小松島港

■ 九州地方

油津港、伊万里港、大分港、北九州港、熊本港、薩摩川内港、志布志港、長崎港、細島港、三池港、宮崎港、八代港

1. 当社の（1年間の）取組

1) 基幹航路の維持・拡大に向けた取組② (2) 戦略的なポートセールス・営業活動の実施

【国内】

- ・ 2025年 4月 阪神港集貨事業説明会
(4/21 神戸 105名、4/23 大阪 97名、4/25 東京 78名)
- ・ 2025年 7月 阪神港セミナー (7/24 鹿児島市 54名)
- ・ 2025年12月 阪神港セミナー (12/3 秋田市 48名)

【海外】

- ・ 2025年11月 神戸港セミナー (11/11 クアラルンプール約100名)

【トップセールス】

- ・ 2025年 4月 ONE GHQ(シンガポール) 訪問
- ・ 2025年 6月 WAN HAI, YANG MING, T.S. Lines(台湾) 訪問
- ・ 2025年11月 ONE GHQ(シンガポール) 訪問
SITC, PANASIA(中国) 訪問

【荷主等への国交省との共同訪問】

- ・ 2025年 6月 計 3 社
- ・ 2025年 7月 計 2 社
- ・ 2025年 8月 計 1 社
- ・ 2025年 9月 計 1 社
- ・ 2025年 10月 計 1 社

阪神港 集貨事業説明会



阪神港セミナー in 秋田



ONE GHQ (シンガポール) 訪問



1. 当社の（1年間の）取組

2）大規模高規格コンテナターミナルの形成

①大規模高規格コンテナターミナルの形成

【神戸港】

六甲地区

- ・ 2023年 1月 RC6/7とRS-B/Cの一体工事完成

ポートアイランド2期地区

- ・ 2023年 3月 PC13-17再整備事業現地工事着手
(2025年度供用開始予定)
- ・ 2023年11月 PC18拡張部供用
- ・ 2024年 4月 日新がPC14からPC13に移転完了
- ・ 2024年11月 PC13-17集中ゲート供用開始

【大阪港】

- ・ 2024年 7月 C12ガントリークレーン2基整備着手
- ・ 2025年 2月 C12延伸部集中ゲート供用開始

②海外コンテナターミナル調査

- ・ 2025年 2月 ロッテルダム港、ハンブルク港調査
- ・ 2025年 4月 トゥアス港調査
- ・ 2025年 9月 ロサンゼルス港、ロングビーチ港調査
- ・ 2025年 11月 クラン港、釜山港調査



PC13～17集中ゲート



PC18拡張部ゲート



C12延伸部INゲート

1. 当社の（1年間の）取組

3）DXやGX、脱炭素化の取組

①大規模高規格コンテナターミナルにおけるDXや脱炭素化

- ・ニアゼロエミッションRTGを活用した水素を動力源としたRTG
高度化実証事業を実施

②コンテナターミナルの照明のLED化

- ・神戸港ガントリークレーン（22基）
- ・大阪港ガントリークレーン（夢洲地区2基、咲洲地区9基）
の照明のLED化を2025年度から実施（2026年度完了見込）
（照明塔や管理棟、保安照明等のLED化も実施）

③CNP認証の取得

- ・大阪港南港コンテナターミナルC-1/4（2025年9月25日：全国初）
- ・大阪港夢洲コンテナターミナルC-10,11,12（2025年11月5日）

④CONPASの運用

- ・運用開始 大阪港：2024年3月29日DICT
神戸港：2024年9月27日PC18
- ・運用開始予定 神戸港：2025年度KICT

⑤CO2排出量の可視化

- ・2024年8月 海側可視化システムの活用
- ・2025年6月 ターミナル側可視化に向けた実証実験を開始

⑥LNGバンカリング船

- ・2024年9月27日 起工式（2026年4月 就航予定）
- ・2025年5月22～24日 バリシップ2025にブース出展

⑦脱炭素先行地域の指定（神戸市）

- ・CFSおよびゲートへの太陽光パネルの設置：2025年KICT
- ・コンテナ内航船のEV化に対応するための電力供給体制確保
に向けて2024年度に引き続き整備を実施



ガントリークレーン照明（LED化）



バリシップ2025

1. 当社の（1年間の）取組

4）中期経営計画の策定

■中期経営計画の策定

- ・第3期中期経営計画（2020～2024）のフォローアップ、2024年2月の新しい国際コンテナ戦略港湾政策の進め方検討委員会「最終とりまとめ」や運営計画との整合性を踏まえて、2025年3月に第4期中期経営計画を策定
- ・第4期中期経営計画（2025～2029）では、取り組むべき方向性を内外に伝えることを重視
- ・基本戦略においては、従来の3つの柱（「集貨・創貨」「ターミナルの機能強化」「経営基盤の強化」）に加え、港湾・海運の脱炭素化の動きに対応するため、新たに「脱炭素化社会実現に向けたCNP形成支援」を追加

第4期中期経営計画の計画目標

		実績（2023）	目標値
コンテナ 取扱貨物量	① 国内シェア	23.3%	23%以上の維持・ 拡大
	② 阪神港コンテナ 取扱貨物量	507万TEU	560万TEU以上
国際基幹航路等の 輸送力の確保	③ 国際基幹航路	67千TEU以上／週	100千TEU以上／週
	④ 国際フィーダー	7.1千TEU以上／週	8千TEU以上／週
安定的な 財務体質の確保	⑤ 自己資本比率	16.5%	10%以上確保

※ ②、③、④については、港湾法第43条の13に基づく「埠頭群の運営の事業に関する計画(運営計画)」に定められた「国際基幹航路に就航する外貿コンテナ貨物定期船の寄港回数の維持又は増加に関する目標」を記載